

田子ノ浦部屋に`新土俵、

稀勢、初稽古は小学校で

大相撲の横綱稀勢の里が所属する田子ノ浦部屋が7日、新土俵で初稽古を行った。東京都江戸川区の同部屋から徒歩10分ほどのところにある小岩小学校敷地内に昨年末につくられた。四股、すり足で感触を確かめた横綱は「素晴らしい施設。稽古場は広いし、

いい土だった」と感想を述べた。

同小学校では昨年初場所後に稀勢の里の初優勝と横綱昇進の報告会が開かれた。江戸川区の多田正見区長によると、その際に田子ノ浦親方(元幕内隆の鶴)から「部屋の近くに土俵があればいい。相撲を通じて地元へ貢献できるから」という話が出たという。江戸川区は名横綱の栃錦の出身地で大相撲との縁も深く、実現に至った。

新しい土俵の今後の活用法は未定だが、競技普及、交流の場となりそうだ。稽古を見学した多田区長は「部屋も(子どもたちに)相撲を教えてくれると思う。人間教育をやってみてもらえたら」と期待を寄せ、大関高安(27)も「相撲を通して地域のために(貢献)できたため」に話した。

高安、飛龍高生に胸貸す

腰痛などで4場所連続休場中の横綱稀勢の里は7日、東京都江戸川区の田子ノ浦部屋近くにある小学校敷地内の稽古場で軽めの調整。6日に40番取った大関高安とも胸を合わさず、四股とすり足を行い「しっかり形を確認した。明日(8日)は(二所ノ関一門)連合稽古。いい相撲をとっていきたい」と穏やかな表情だった。

右脚の負傷により2場所連続休場中の高安は、出稽古に来ている飛龍高の相撲部員に胸を出し「押せ」「腰を落とせ」と声を掛けながら指導した。1週間後に始まる初場所に向けては「状態はいい。このままペースを上げて調整できればいい」と話した。



飛龍高の相撲部員(左)に胸を出し、指導する高安
東京都江戸川区